

## 雑詠

著者	永野, 順造
雑誌名	龍南
巻	2 0 2
ページ	7 2 - 7 2
発行年	1927-07-01
その他の言語のタイトル	雑詠
URL	<a href="http://hdl.handle.net/2298/8958">http://hdl.handle.net/2298/8958</a>

雜 詠

永 野 順 造

夜毎寢るギブスベツトの冷たさの背骨にし泌む秋となりたり  
綿敷かぬギブスベツトの冷さの脊骨にしみて寝つかれなくに  
宿を出でてひとり來にけり荒磯邊に夕滿ち汐の泡立ち寒し（日奈久嶋山海岸四首）  
北寄りの風しるくなりぬ夕暮れの沖邊に薄き入り陽の名残り  
夕磯に白く泡立ちよる波のあぐるしぶきに足袋を濡らせり  
夕磯にはつかに残る陽の光立ち去りかねて吾は居にけり